

南包括目標	アクションプラン(行動計画)	令和5年度実施内容	評価	課題・改善点
<p>身近な相談窓口として</p> <p>安心して自立生活ができる地域へ</p> <p>顔のわかる関係性へのネットワークづくり</p> <p>見守り合える地域へ</p>	<p>地域包括支援センターとして本来行うべき業務はもとより、今年度においては以下の8項目を重点行動計画とします。</p> <p>①出張相談の実施 ・昨年度、毎月実施した地域（東和苑）は年2回として、次に南包括から遠い別の地域で実施を検討する。 ・出張相談会を終了する時に、全戸に地域包括支援センターのチラシを配布する。</p> <p>②地域包括支援センターの周知 ・出張講座の際に地域包括支援センターを案内し、相談窓口であることを知ってもらう。</p> <p>③認知症について理解を深める活動 ・徘徊模擬訓練を実施する。 ・認知症カフェ（なかの邸）の定期的な実施を継続する。</p> <p>④介護予防の取り組み ・老人会やサロン、出張講座などを通じて、介護予防や健康づくりに関心を持ってもらう。</p> <p>⑤地域ケア個別会議の開催 ・他職種と意見交換をし、確認や助言を受ける中、更なる自立支援、重度化防止ひいては高齢者の生活向上を目指す目的で会議を随時開催する。</p> <p>⑥地域ケア推進会議の開催 ・5月か6月頃に水害の危険性の高い地域での勉強会を実施する。 ・やすらぎクラブ・自治会・生活支援コーディネーターと協働し、マイタイムラインをの作成を実施する。</p> <p>⑦権利擁護の促進 ・成年後見制度や権利擁護事業の利用促進および対象者の支援を行う。 ・虐待ケースに速やかに対応する。</p> <p>⑧重層的支援体制整備事業への参画 ・子供が精神疾患や引きこもり状態で、支える親が高齢化してきている世帯が増えてきている。重層的支援体制整備事業の窓口である「福祉なんでも相談室」と連携をとり、各支援機関とつながる。</p>	<p>①・南包括から遠い地域として I 馬場見場走りの医院をお借りして奇数月に出張相談会を実施している（5、7月実施）。II 偶数月には古市（在）の健康体操に参加し終了後相談会を実施している（4、6月実施）。 ・東和苑全戸に3月に包括のチラシを配布予定。</p> <p>②・これまで関わりのない地域からの依頼があり、出張講座で包括の案内をした。</p> <p>③・10月に、最近ケアプラン作成を依頼することが増えている京都市の居宅と共同で徘徊模擬訓練を実施する予定。（7/3 打ち合わせ実施） ・毎月認知症カフェを実施、7月には認知症の方が演者としても出演した。</p> <p>④4/1 5/13 6/8 7/26出張講座、4/10 5/8 6/20サロンへ出向き、フレイルや介護予防、熱中症の話や体操をした。</p> <p>⑤4/8 6/7 6/23 地域ケア個別会議を実施した。 5/2 支援検討会議を実施した。</p> <p>⑥6/30 水害の危険性の高い地域での推進会議を実施するための打ち合わせを行った。</p> <p>⑦・成年後見制度は現在1件申し立てを行っている。権利擁護の勉強会へ出席し、スムーズな利用につなげられるようにしている。 ・虐待ケースは7月末時点で7件の通報・相談があり、速やかに対応している。</p> <p>⑧高齢の両親と精神疾患を持った子ども（二人）の世帯について、子どもの相談先がなく今後のことが不安とのことで「福祉なんでも相談室」へ相談した。</p>	<p>・古市（在）の相談会は大勢が集まる会なので気軽に相談してもらっている。馬場見場走りは現在相談なし。</p> <p>・地域に出向いての活動が増えており包括の周知ができた。</p> <p>・模擬訓練について関係機関と打ち合わせ中である。 ・なかの邸カフェは毎月好評いただき参加人数も増えている。認知症の方も発表に向けて練習をし終了後はお客さんより喜んでいと家族より話があった。</p> <p>・介護予防や体操、介護保険について関心を持つ方が増えている。これまであまり関わりのなかった未組織地域の方を対象にした講座（西光寺で）も実施できた。</p> <p>・ケアマネジャーからケース対応の相談に始まり、情報共有と一人で抱え込まない支援ができた。</p> <p>・マイタイムライン作成については、役所から自治会に対してまずは公式に話しがいくとのことで、それを実施してからの活動予定となった。</p> <p>・成年後見制度は本人が入院中だが病院、MSW、弁護士、社会福祉士、ケアマネとスムーズに連携できた。 ・虐待ケースに対して、行政、ケアマネ、事業所と連携し速やかな対応ができている。</p> <p>・実際に親子で役所に行き相談をされ、なんでも相談室が子どもと関わりを持たた。</p>	<p>・民生委員や自治会へ相談会のチラシを渡せていない回があり、周知が不十分だった。</p> <p>・出張講座以外でも地域に出向く際、包括のリーフレットを持参し配布する。</p> <p>・なかの邸では参加人数が増加し、スペース的に手狭になってきた。固定利用者が多く、新規の人を誘いづらい。</p> <p>・未組織地域の方を対象にした講座を引き続き実施し、関わりを持っていく。地域の居場所として西光寺を案内する。</p> <p>・すぐには解決できないケースが大方をしめる。目的・方向性・着地点を考慮しつつ支援をすすめていく。</p> <p>・秋頃には地域ケア推進会議の実施を予定している。</p> <p>・いざという時に急いで成年後見制度を検討し始めることがある。エンディングノートなど活用して事前に考えてもらう。</p> <p>・引きこもりや就労していない子どもを抱えた高齢の両親の世帯が増えている。相談先がわからず支援につながっていないケースも多い。今後も連携を密にして、とりこぼさない支援をしていきたい。</p>